裾野麗峰山の会・山行報告書	文・写真　後藤
山行番.	NO.2020
日　時	2023 年 05 月 27 日（土）無風・晴・爽やか
山　域	北アルプス・燕岳（2763m）
コース	中房温泉下 5:39-2220m 雪が出る 7:58-合戦小屋 8:08-アイゼン付ける 8:37-燕山荘 9:24-燕岳 9:54-燕山荘（昼食）10:34～11:00-合戦小屋 11:55-中房温泉 13:30
標高差	上・下り　第二駐車場約 1394m～燕岳 2763m＝約 1369m（単純標高差）
データ	長泉町～豊科～中房温泉往復＝約 730km
難易度	非常に困難　困難　**レやや困難（日帰り）**　普通　やや易しい　易しい
50 人抜きの山だった	
参加者	後藤、加藤、合谷＝3 名

松本在住の山岳スキー知人のネット記録に刺激され、久しぶりに「燕さま参り」となった。来週から雨続きの世界。好天は今週末でお終い。最後のチャンスだった。

前日は、安曇野のゲストハウス「アルペン・ブルー」で宿泊。安曇野の田園風景に溶け込んだステキな宿だった。

今回からの車

アルペン・ブルー

しかも、宿代金は「信州割り」で 20%割引。更にクーポンが 2000 円あり、ラッキーだった。オーナーは、神奈川から「イジュ～」したMご夫妻。冬は二人ともスキーのインストラクターをしているという。20 時まで歓談し夜は更けた。外は蛙大合唱。

翌朝 4 時起床。朝食を済ませ中房温泉に向かう。上の駐車場は満杯。下の駐車場に滑り込んだ。25 日は平日でガラガラだったというが、好天の土曜日で登山者は多い。最近は、「駐車難民」という言葉もある。

登山口までひと上り。涼しく快適で上り易い。第一ベンチ・第二ベンチと上って行く。ベンチは多くの登山者が休んでいた。

我々は、通常２時間で一本。従って、「ゴボウ抜き」になる。そんな状況だが、K嬢は、シッカリ手に「コシアブラ」を採っていた。

いやはや、見上げた根性である。私も下山時加わり、「コシアブラ」を覚えた。ただ、熱中すると足元がおぼつかない。

標高約 2220m で雪が出た。上が合戦小屋。15 名程休んでいた。トイレ（200 円）を済ませ出発。小屋上の展望台でアイゼンを着けた。中には、ノーアイゼンの方もいた。

合戦小屋

雪は多い

燕山荘

燕山荘を仰ぐ

アイゼンなしで、頼りない足取りで下るご婦人もいた。早朝は硬いのでは危険だ。

最後の展望台でアイゼンを外した。ここから雪がない。登山道が痛むので、「アイゼンを外して」と小屋のお知らせがあった。

稜線はガスが去来していた。西は晴れていたが東はガス。ただ、槍は小槍までハッキリ見えた。山頂に急ぐ。この山に来たのは久しぶりだった。

1. 1974/04/28～5/03　餓鬼岳～燕岳～常念岳～蝶ヶ岳
   http://susono-reihou.babyblue.jp/01-350.pdf
2. 2001/08/12～15　合戦尾根～大天井岳～貧乏沢～北鎌尾根～槍～槍平
   http://susono-reihou.babyblue.jp/552.pdf
3. 2004/10/23～24　東沢から周回（23 日 17:26、新潟中越地震発生、小屋は激しく揺れた）
4. 2006/10/14～15　東沢から周回（Ｉ，Ｍとテント泊、夕焼け・朝焼けが感動的）
5. 2016/07/29～30　合戦尾根、常念岳まで縦走（悪天候だった）
   http://susono-reihou.babyblue.jp/450.pdf
6. 今回

1974 年、餓鬼から燕は難しかった。2001 年、北鎌は楽しかった。2004 年、地震に驚いた。2016 年、天気が悪く、テン泊したＨのカメラがオシャカ。数々の思い出があった。ただ、冬は上っていない。長い下道はイヤだ。

さわやかハイク・懐かし版　2006/10/14～15（Ｉの荷物は昔も大、夭折したＭも元気だった）

巨石オブジェを縫って山頂着。ガスが取れ気持ち良い展望。記念写真を撮って貰った。早々と下山。2006 年、攀り上った「メガネ岩」は、登山禁止だった。山荘ベンチで昼食。今回、涼しく大汗を掻かなかったので、食欲は旺盛だった。

抜いて来た多くの登山者が辿り着く。宿泊が多いようだ。2006 年利用したテン場は、まだ一面雪で、何人かのテン泊者は気の毒だった。

30 分で下山。上って来る登山者をやり過ごすのが大変。残雪は腐り、アイゼンは不要だった。それにしても多くの方が上って来る。人気の山だ。

合戦小屋まで快適な下り。花崗岩が風化した道は歩き易い。ただ、ここから長い。中房温泉の赤い屋根が眼下にチラチラするが、一向に近づかない。

何処かの中高年者が、ストックを使わず、ピョンピョン下って行くが、もうあんな真似は出来なくなった。「ありゃ、天狗かいな？？」

前述した「コシアブラ」を採りながら、ようやく中房温泉着。Ｋが車回収の間、生をやった。中房で温泉と思ったが、2006 年入った有明荘が懐かしく、そちらを利用した。

一緒に入った東京の若い衆は、有明山に上って来たという。東京発 12 時で、眠くてしょうがないと嘆いていた。若くても東京から日帰りは厳しい。

安曇野で食事を済ませ帰静。今回、標高差は大きいが、上り易いイイ山だった。皆様に感謝、多謝、深謝です。

下山（Ｋの左手竹は現地調達・笑）

山頂